

# 四季彩り

中小企業診断士

成岡 秀夫

いろいろな事業承継、事業引継ぎのご相談がある京都府事業引継ぎ支援センター（京都市中京区）。開所以来約2年半経過したが、相談の中でも難しいケースは創業代表者の方から次代への事業承継のご相談だ。

日本全体が高度経済成長に湧いた昭和50年代に起業・創業し、40年近くにわたり立派に企業経営をされてきた。気が付けば70歳前後になり、会社も一定の規模になり、従業員も結構な人数がいらっしゃる。

男性のご子息は、別の業界に行かれて地元にはいない。娘さんは既に嫁いでご本人もご主人も後継者にはなりえない。では、従業員はどうかとい

## 難しい創業者からの承継



うと、現場の仕事はきちんとやってくれるが、ごと会社の経営となると誰も一長一短あつて難しい。

なにより自分自身が創業者で先代から受け継いだ経験がないから、いつ、

何を、どうしていいか分からない。周囲にも似たような環境の友人がいるが、同じような経歴なので相談しても答えが見つかからない。

そういったご相談が結構多く寄せられて、われわれスタッフも対応に苦慮するケースが多い。こういうケースでは、代表

者の方がまだお元気なのだ。70歳を越えたとはいえ、現場ではまだ現役だし、走り回っていらつしやる。後継者が見つからないというより、自分ももう承継を考えないといけない時期になっているという自覚がない。

しかし、外部の第三者に引き継ぐとなると準備に時間がかかる。必ずしも適任のお相手が簡単に見つかるわけではない。

M&A（企業の合併・買収）などという言葉がよく聞かれるが、ことはそう簡単ではない。

創業者だから、野球で言えば先発ピッチャーしかやったことがない。リリースの経験がない。経験がないことは分からない。分からないと準備ができないし、気が付いたら手遅れになっている可能性がある。早い準備が一番大事なのだ。